

## 平成 22 年 3 月期 第 1 四半期決算短信

平成 21 年 8 月 7 日

会社名	チッソ株式会社	グリーンシート銘柄	
コード番号	4006	URL	http://www.chisso.co.jp
代表者	代表取締役会長	後藤 舜吉	
問合せ先責任者	総務部長	堀尾 俊也	TEL (03)3243-6370

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 22 年 3 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	51,949	△27.4	3,886	6.3	569	△84.8	△682	—
21年3月期第1四半期	71,555	13.7	3,655	△12.7	3,748	△21.2	1,637	△27.4
21年3月期	249,244	—	15,150	—	10,266	—	3,002	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
22年3月期第1四半期	△4	37	—	—
21年3月期第1四半期	10	50	—	—
21年3月期	19	26	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
22年3月期第1四半期	192,457	—	△96,892	—	△52.0	△642	73	
21年3月期第1四半期	208,847	—	△97,262	—	△48.2	△623	99	
21年3月期	191,710	—	△96,603	—	△52.1	△641	14	

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	水俣病補償による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
22年3月期第1四半期	7,835	△1,804	2,413	△548	19,766
21年3月期第1四半期	3,821	△1,915	△835	△563	20,742
21年3月期	3,149	△7,811	972	△4,829	11,571

### 2. 平成 22 年 3 月期の連結業績予想 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) 【参考】

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第 2 四半期連 結累計期間	90,000	△39.8	3,000	△63.9	100	△97.4	0	64
通 期	200,000	△19.8	13,000	26.6	5,200	73.2	33	37

(注) 平成 21 年 5 月 14 日に公表しました業績予想については現時点で変更はございません。

### 3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う) : 有

特定子会社の異動)

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、2 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

**【定性的情報・財務諸表等】**

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期(平成21年4月1日～平成21年6月30日)のわが国経済は、輸出や生産の持ち直しを受けて景気の底打ち感が出てきたものの、企業収益の低迷や雇用情勢の悪化及び設備投資の大幅な減少などにより、引き続き厳しい状況となりました。

当社グループにおきましては、化学品事業セグメントは、機能材料分野の液晶等の出荷が好転しましたが、化学品分野及び加工品分野は、総じて厳しい状況となりました。

その他の事業セグメントにおいても、エンジニアリング部門は、売上高が増加しておりますが、昨年来の不況により、このところの受注は低調となっております。商事部門は、樹脂関係の受注が回復せず売上高が減少しました。

これらの結果、当社グループの売上高は51,949百万円(前年同期比27.4%減)、経常利益は569百万円(前年同期比84.8%減)となりました。特別損益におきましては水俣病補償損失等1,025百万円を特別損失として計上した結果、当第1四半期純損失は682百万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期における総資産は前年同期に比べ16,390百万円減少し、192,457百万円となりました。

また、純資産は、△96,892百万円となりました。

当第1四半期の現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は、前連結会計年度末と比較して8,194百万円増加しました。その主な要因は次のとおりです。

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、7,835百万円の収入となりました。これは主に機能材料分野の市況回復による営業収益の増加及び在庫減少による運転資金の改善によるものです。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、1,804百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものです。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、2,413百万円の収入となりました。これは主に短期借入金の借入によるものです。
- ・水俣病補償によるキャッシュ・フローは、548百万円の支出となりました。これは主に水俣病患者に対する補償金の支払によるものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期の実績見通しにつきましては、平成21年5月14日に発表しました業績予想から変更はありません。

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

除外：1社 社名：千葉酢酸エチル㈱

- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

本四半期決算の数値は、税効果会計の適用等、所要の会計上の修正をおこなっておりません。

- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

- ・「工事契約に関する会計基準」の適用

「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については、工事完成基準を適用しております。これによる損益への影響はございません。